

研 修 区 分 表

令和7年6月30日作成

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
1 職務の理解 (6 時間)	6			6	<到達目標> 研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について理解します。この指導を通じて、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになります。
(1) 多様なサービスの理解	3			3	<講義の内容> ・介護保険サービス（居宅、施設）の概要 ・介護保険外サービスの概要 上記の事項について、講師が講義します。
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3			3	<講義の内容> ・介護職の仕事内容や働く現場の理解 ・ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携。 上記の事項について、主要なものの名称と概要を把握できるように、視聴覚教材をもとに、介護職が働く現場や仕事の内容を具体的に講師が講義します。 <演習実施方法> グループに分かれ、講師の指導のもと、ディスカッションを適宜実施します。
2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間)	9			9	<到達目標> 介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解します。
(1) 人権と尊厳を支える介護	3.5			3.5	<講義の内容> ・ I C F ・ Q O L ・ ノーマライゼーション ・ 個人の権利を守る制度の概要 ・ 人権と尊厳の保持 ・ 虐待防止・身体拘束禁止 上記の事項について、人権擁護の点も踏まえながら講師が講義します。

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
(2) 自立に向けた介護	3.5			3.5	<講義の内容> ・自立支援 ・介護予防 ・自立支援のための介護方法 上記の事項について、基本的視点を講師が講義します。 <演習実施方法> 小グループに分かれ、講師の指導のもと、小グループでの討論を適宜実施します。
(3) 人権に関する基礎知識	2			2	<講義の内容> ・人権について、人権への取り込み、身近な人権の事 上記の事項について、講師が講義します。
3 介護の基本 (6 時間)	6			6	<到達目標> 介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち、重要なものを理解します。 介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事が出来るようになります。
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5			1.5	<講義の内容> ・介護環境の特徴の理解 ・介護に関する職種 ・介護の専門性 ・専門職の倫理の意義 上記の事項について、講師が講義します。
(2) 介護職の職業倫理	1.5			1.5	<講義の内容> ・介護の倫理 ・介護職としての社会的責任 ・プライバシーの保護、尊重 上記の事項について、講師が講義します。 <演習実施方法> グループに分かれ、講師の指導のもと、ディスカッションを適宜実施します。
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5			1.5	<講義の内容> ・介護における安全の確保 ・事故予防、安全対策 ・感染対策 上記の事項について、講師が講義します。
(4) 介護職の安全	1.5			1.5	<講義の内容> ・介護職の健康管理 ・ストレスマネジメント ・介護職の健康管理と介護サービスの質との関係 ・腰痛予防など 上記の事項について、講師が講義するほか、受講者間の討議を通じて理解を深め、受講者が実際に行動することで定着をはかり、理解を深めます。

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9 時間）	9			9	<到達目標> 介護保険制度や障がい者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙出来るようになります。
(1) 介護保険制度	1.5			1.5	<講義の内容> ・介護保険制度創設の背景および目的、動向 ・仕組みの基礎的理解 ・制度を支える財源、組織、団体の機能と役割 上記の事項について、講師が講義します。
(2) 医療との連携とリハビリテーション	6			6	<講義の内容> ・介護における医療と福祉の連携 ・介護職と医行為 ・リハビリテーション理念 上記の事項について、講師が講義します。 <演習実施方法> 体温や脈拍の測定などのバイタルチェックを、講師の指導のもと演習を行います。
(3) 障害者総合支援制度およびその他制度	1.5			1.5	<講義の内容> ・障害者福祉制度の理念、概念 ・障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解 ほか 上記の事項について、講師が講義するほか、受講者の演習を通じて理解を深めます。
5 介護におけるコミュニケーション技術（6 時間）	6			6	<到達目標> 高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解していきます。
(1) 介護におけるコミュニケーション	3			3	<講義の内容> ・コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ・利用者、家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の状況、状況に応じたコミュニケーション技術の実際 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 上記の事項について、講師が講義します。
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	3			3	<講義の内容> ・記録における情報の共有化 ・報告 ・コミュニケーションを促す環境 講師の指導のもと、コミュニケーションのロールプレイングを行います。 <演習実施方法> 講師の指導のもとロールプレイングを行います。

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
6 老化の理解 (6 時間)	6			6	<到達目標> 加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解していきます。
(1) 老化に伴うところとからだの変化と日常	3			3	<講義の内容> ・ 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・ 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 上記の事項について、講師が講義します。
(2) 高齢者と健康	3			3	<講義の内容> ・ 高齢者の疾病と生活上の留意点 ・ 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 上記の事項について、講師が講義します。 <演習実施方法> グループに分かれ、講師の指導のもと、ディスカッションを適宜実施します。
7 認知症の理解 (6 時間)	6			6	<到達目標> 介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解していきます。
(1) 認知症を取り巻く状況	1			1	<講義の内容> ・ 認知症ケアの理念 上記の事項について、講師が講義します。
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2			2	<講義の内容> ・ 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理、認知症の定義、せん妄の症状、健康管理 上記の事項について、講師が講義します。
(3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	2			2	<講義の内容> ・ 認知症の利用者への対応 ・ 認知症の生活障害、心理、行動の特徴 上記の事項について、講師が講義します。
(4) 家族への支援	1			1	<講義の内容> ・ 認知症の受容過程での援助、介護負担の軽減 上記の事項について、講師が講義するほか、DVDなどの視聴を適宜実施します。 <演習実施方法> グループに分かれ、講師の指導のもと、ディスカッションを適宜実施します。

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通 学	通 信	実 習	計	
8 障害の理解 (3 時間)	3			3	<到達目標> 障がいの概念と I C F、障がい者福祉の基本的考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解します。
(1) 障害の基礎的理解	1			1	<講義の内容> ・障害の概念と I C F ・障害者福祉の基本理念 上記の事項について、講師が講義します。
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かわり支援等の基礎的知識	1			1	<講義の内容> ・視覚障害、聴覚障害 ・内部障害 ・精神障害 ・身体障害 ・精神障害・その他の心理の機能障害 上記の事項について、講師が講義します。
(3) 家族の心理、かわり支援の理解	1			1	<講義の内容> ・家族への支援 上記の事項について、講師が講義します。 <演習実施方法> グループに分かれ、講師の指導のもと、ディスカッションを適宜実施します。
9 こころとからだのしくみと生活支援技術 (75 時間)	75			75	<到達目標> 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できるようになります。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得します。
(1) 介護の基本的な考え方	4			4	<講義の内容> ・倫理に基づく介護 ・法的根拠に基づく介護 上記の事項について、講師が講義します。
(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	2			2	<講義の内容> ・学習と記憶、感情と意欲の基礎知識 ・自己概念と生きがい、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ・こころの持ち方が行動、からだの状態がこころに与える影響 上記の事項について、講師が講義します。
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	6			6	<講義の内容> ・人体の各部の名称と働き、骨、関節、筋に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 ・ボディメカニクスの活用 ・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ほか 上記の事項について、講師が講義します。 <演習実施方法> グループに分かれ、講師の指導のもと、小グループでの討論を適宜実施します。

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通 学	通 信	実 習	計	
(4) 生活と家事	3			3	<講義の内容> ・家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援、生活歴、自立支援、予防的な対応、主体性・能動性を引き出す、多様な生活習慣、価値観 上記の事項について、講師が講義します。 <演習実施方法> グループに分かれ、講師の指導のもと、ディスカッションや利用方法など適宜実施します。
(5) 快適な居住環境整備と介護	3			3	<講義の内容> ・快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 上記の事項について、講師が講義します。 <演習実施方法> グループに分かれ、講師の指導のもと、ディスカッションや利用方法など適宜実施します。
(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6			6	<講義の内容> ・整容に関する基礎知識、整容の支援技術 上記の事項について、講師が講義します。 <実技実施方法> グループに分かれ、講師の指導のもと、ロールプレイング及び衣類着脱等の実技演習を行います。
(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	12			12	<講義の内容> ・移動、移乗に関する基礎知識、さまざまな移動、移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動、移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援 上記の事項について、講師が講義します。 <実技実施方法> グループに分かれ、講師の指導のもと、ロールプレイング及び移乗の介護、移動の介護に関連する実技演習を実施します。
(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3			3	<講義の内容> ・食事にに関する基礎知識、食事環境の整備、食事に関連した用具、食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 上記の事項について、講師が講義します。 <実技実施方法> グループに分かれ、講師の指導のもと、ロールプレイング及び食事の介護に関連する実技演習を実施します。

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
(9)入浴、清潔保持に関連した ところとからだのしくみと 自立に向けた介護	6			6	<講義の内容> ・入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 上記の事項について、講師が講義します。 <実技実施方法> グループに分かれ、講師の指導のもと、ロールプレイング及び入浴の介護、清潔保持に関連する実技演習を実施します。
(10)排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	12			12	<講義の内容> ・排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽やかな排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 上記の事項について、講師が講義します。 <実技実施方法> グループに分かれ、講師の指導のもと、ロールプレイング及び排泄の介護に関連する実技演習を実施します。
(11)睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4			4	<講義の内容> ・睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 上記の事項について、講師が講義します。 <実技実施方法> グループに分かれ、講師の指導のもと、ロールプレイング及び実際に安楽な姿勢、褥瘡予防に関連する実技演習を実施します。
(12)死にゆく人に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	2			2	<講義の内容> ・終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程「死」に向き合う心の理解、苦痛の少ない死への支援 上記の事項について、講師が講義します。 <演習実施方法> グループに分かれ、講師の指導のもと、グループディスカッションを行います。

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通 学	通 信	実 習	計	
(14) 介護課程の基礎的理解	6			6	<講義の内容> ・介護過程の目的、意義、展開 ・介護過程とチームアプローチ 上記の事項について、講師が講義します。 <演習実施方法> グループに分かれ、講師の指導のもと、ディスカッションを行います。
(15) 総合生活支援技術演習	6			6	<講義の内容> ・生活の各場面における介護事例の検討 ●事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題（1事例 1. 5時間程度で上記サイクルを実施します） ●事例は「高齢分野」（要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から2事例を選択して実施します。 検討は、グループディスカッション形式で行います。 <実技実施方法> 事例を用いて、グループに分かれ、講師の指導のもと、ディスカッションを行います。
10 振り返り（4時間）	4			4	<到達目標> 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図ります。
(1) 振り返り	3			3	<講義の内容> ・研修を通じて学んだこと ・今後継続して学ぶべきこと ・根拠に基づく介護についての要点 上記の事項について、講師が講義します。
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1			1	<講義の内容> ・継続的に学ぶべきこと ・研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例を紹介。 上記の事項について、講師が講義するほか、事業所における介護職の体験談を聞いていただきます。 <演習実施方法> グループに分かれ、講師の指導のもと、ディスカッションを適宜実施します。